

## ■8月28日

## 国交省、2014年度、航空空関連概算要求

国交省は27日、2014年度予算・概算要求を発表した。このなかで航空局は、来年度の空港整備勘定収支を、今年度予算よりも437億円多い3,265億円と策定した。

重点的に予算を配分する政府の「新しい日本のための最優先課題推進枠」(一般会計から受入)として、那覇空港の滑走路増設事業で170億円、羽田空港の機能強化で128億円、成田空港への16億円で計314億円を要求した。

また、同省は、来年度の国管理の空港使用料について、地方航空ネットワーク拡充に向け、地方空港での新規就航や増便を行った場合に着陸料を割引く制度を新規導入する方針を明らかにした。羽田空港の深夜早期時間帯の着陸料にも軽減措置を導入する。

このほか、小型機材を対象に着陸料や航行援助施設利用料の軽減措置を設ける。地方航空支援方策として、地域が主体的に行う路線維持の取り組みのうち、モデル的な取り組みについて国が選定、一定の支援を行う制度を導入する。

(日刊航空)8/28

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

## 成田空港、LCC専用ターミナル、CIQ整備、概算要求29億円

国土交通省は27日に公表した2014年度予算の概算要求で、成田国際空港について成田国際空港会社(NAA)が第2ターミナル北側に整備するLCC専用ターミナルのうちCIQ部分の整備などで国費29億円を来年度予算概算要求に盛り込んだ。うち16億円を「新しい日本のための最優先課題推進枠」として計上した。

なお、NAAは、LCCターミナルの整備をはじめ、第1ターミナル南ウイングと第2ターミナルの南側固定ゲート延伸事業など、2014年度事業費として約610億円を予定している。

(日刊航空)8/28

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

## 国交省、仙台空港民営化関連、1億円の予算計上

国土交通省は27日に公表した2014年度予算の概算要求で、仙台空港など国や地方自治体が管理する空港の運営を民間委託する事業に、前年度予算の2.5倍に上る5億円を計上した。

仙台空港関係では、14年度に予定する委託先企業の公募・選定手続きに関わる経費として、約1億円を計上した。応募企業の提案内容などを確認するため、有識者による第三者機関を設置する計画という。

このほか、広島空港や高松空港での委託に向けた具体的な検討作業と、他空港での可能性調査にそれぞれ約2億円ずつ計上された。

(河北新報)8/28

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/08/20130828t13017.htm> (-> <http://www.kahoku.co.jp/news/2013/08/20130828t13017.htm>)

## FDA、山形—九州方面、チャーター便運航

山形県は27日、フジドリームエアラインズが10～11月、山形空港と九州方面を結ぶチャーター便を運航すると発表した。名古屋空港を拠点とするFDA便の運航を追い風に、県は2010年に運休した山形—名古屋線定期便の復活を目指す。

チャーター便は、近畿日本ツーリスト東北など東北の旅行会社3社が企画し、鹿児島県の屋久島、種子島、鹿児島3空港を結ぶ直行便を計4本、高知空港への便を1本運航する。

同時期、中部圏の旅行会社が企画した山形観光ツアーに合わせ、名古屋発山形行きチャーター便も計5本を運航

する。

FDAは来年3月、機体を1機追加し、国内路線を拡充する。県が今年3月に行った県内企業121社のアンケートでは、自動車関連産業を中心に名古屋線復活の要望が寄せられており、県はチャーター便の利用者を増やし、FDAの名古屋線を就航させたい考えだ。

(河北新報)8/28

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/08/20130828t55015.htm> (->

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/08/20130828t55015.htm>)

アジアナ航空、日韓路線を減便並びに運休、羽田線は週2便へ

アジアナ航空は27日、夏季スケジュール(10月26日まで)において、日韓路線を見直すと発表した。日本からの3路線で減便、旭川線は9月29日以降は運休する。

1日1便の羽田～仁川線は、9月30日～10月26日まで、金曜・日曜日の週2便に減便する。

静岡～仁川線も現在の1日1便から、週5便に減便、仙台～仁川線も、同様に現在の1日1便から週4便に減便する。

(レスポンス)8/27

<http://response.jp/article/2013/08/27/204991.html> (-> <http://response.jp/article/2013/08/27/204991.html>)

(アジアナ航空 HP)

<http://jp.flyasiana.com/Global/JP/ja/homepage?fid=ABOUT14000&cmd=NEWSVIEW&seq=2470> (->

<http://jp.flyasiana.com/Global/JP/ja/homepage?fid=ABOUT14000&cmd=NEWSVIEW&seq=2470>)

ノックエア(LCC)、第2四半期、最終利益前年同期比136%増

(産経bizによると)

タイの格安航空会社(LCC)大手、ノックエアが好調だ。現地紙バンコク・ポストによると、同社の今年第2四半期(4～6月期)の売上高は前年同期比38.7%増の26億1800万バーツ(約81億円)、最終利益は同136%増の2億6010万バーツだった。

ノックエアは今年6月にタイ証券取引所に上場したばかり。同国ではLCC市場の拡大とともに価格競争も激化しているが、同社は乗客数が前年同期比52%増の140万人となり、運賃の下落を客数でカバーすることに成功した。また、燃費効率の良い新機材の投入もコスト削減に寄与したもようだ。

同社幹部は今年後半について、価格競争が一服して客単価も上昇すると予想。「新機材2機の投入を予定しているほか、ミャンマー便を就航させるなど国内外での増便を計画している」と述べ、さらなる成長に自信を示した。

(産経biz)8/27

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130827/bsk1308271001003-n1.htm> (->

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/130827/bsk1308271001003-n1.htm>)

韓国、7月国際線旅客数、前年同月比6.7%増、LCCシェアは10.5%

韓国国土交通部は27日、7月の国際線旅客数が前年同月比6.7%増の463万人を記録したと発表した。7月としては過去最多となった。旅行客の増加、格安航空会社(LCC)の運航拡大などが影響した。

路線別では、中国線が同20.4%増と大幅に増えた。東南アジア(同7.0%増)、米州(同5.0%増)、欧州(同4.0%増)の各線も増加した。日本線は同6.6%減少した。

国際線のLCCのシェアは10.5%で、前年同月より2.5ポイント上昇した。

(Yonhapnews)8/27

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/08/27/0200000000AJP20130827001500882.HTML> (->

<http://japanese.yonhapnews.co.kr/headline/2013/08/27/0200000000AJP20130827001500882.HTML>)

春秋航空(LCC)、香港—本土4路線を廃止

春秋航空は、杭州、アモイ(廈門)、南京、重慶と香港を結ぶ4路線を来月から廃止し、同社の香港路線は上海、洛陽、石家荘からの3路線のみを存続する。27日付信報が伝えた。

NNA ASIAによると、香港路線の大幅縮小は、運航コストが高い上、乗客が伸び悩んだことが原因だ。春秋航空は香港路線の運航コストを削減するため、乗員の香港での宿泊を取りやめた。

LCCのビジネスモデルは、就航先空港の優遇措置に依存する部分が多い。

春秋航空は香港空港管理局(AAHK)に対し、駐機料の優遇措置を求めたが拒否された。これに対し、河北省の石家荘空港は、春秋航空にさまざまな優遇を行い、同社は石家荘を上海に次ぐ第2の拠点と位置づけている。香港国際空港(チェックラプコク空港)は現在の滑走路2本では発着枠が不足する状況にあり、優遇措置を講じてまでLCCを誘致する状況にはない。

(NNA ASIA)8/28

<http://news.nna.jp/free/news/20130828hkd008A.html> (-> <http://news.nna.jp/free/news/20130828hkd008A.html>)